

糸島の幕末

～勤皇の志士「大神壱岐守」の史料を中心に～

江野 道和（伊都国歴史博物館）

I はじめに

伊都国歴史博物館では平成22年度の冬季企画展として『糸島幕末維新伝』を開催した。会期は平成23年2月26日～4月3日である。幕末における糸島を紹介する展示会で、糸島に関連する維新の志士と唐津街道の宿場町である「前原宿」を取り上げた。維新の志士としては、慶応元（1865）年のいわゆる乙丑の獄に連座し、姫島に流された野村望東尼をはじめ、望東尼救出に尽力したといわれる釘本久平長邦、本稿で取り上げる前原の老松神社（写真1、地図中①）神職である大神壱岐守の紹介を行った。また、前原宿のコーナーでは、幕末に関番を務めた萩尾可朔や萩尾定蔵にまつわる史料の紹介を中心に、当時の唐津街道絵図などの展示もあわせて行った。

さて、ここで紹介する大神壱岐守繁興については、糸島出身の幕末の志士であるにも関わらず、あまり地元でも知られていない状況である。これは、後で詳しく述べるが、明治維新後に建てられた繁興を顕彰する銅像などが現在は失われていることなどが大きな要因として挙げられる。ついては、繁興の紹介を大神家に残されている文書や写真に沿って見て行きたい。



写真1 現在の老松神社（幕末の頃は、ここから300mほど北西に行った場所にあった）

II 大神壱岐守繁興略伝

まず、繁興の略歴について、大神家文書の中にある『大神壱岐守繁興略傳』（表2-3）と『大神壱岐守繁興事蹟書』（表2-9）を元に見て行きたい。

1) 生い立ち

大神壱岐守繁興は幼名を堰といい、家を継いだ後、壱岐守と称した。天保5（1834）年3月21日、筑前国志摩郡師吉村（現、福岡県糸島市志摩師吉）で生まれた。大神家は代々、前原宿の老松神社や師吉村日吉神社の祠官を務めた家柄であった。父は和泉正友、母は中村まさである。上記略伝には

「少シテ書ヲ読ミ和歌ニ通シ殊ニ筆翰ヲ能クス
夙ニ心ヲ皇典ニ寄セ兼テ武芸ヲモ綜ベ童蒙ヲ訓誨ス」

と記されており、子どものころから文武いずれも非常に優秀であったといわれる。

15歳の時に父の職を継いで神官となり、老松神社に奉仕することとなった。

2) 攘夷決行

繁興は、久留米水天宮祠官で久留米藩士の真木和泉保臣や福岡藩士の平野二郎国臣らと呼応して、尊王攘夷の思いを抱いていた。文久3（1863）年、京都に上り、「従五位下」に叙せられ、「肥前守」を賜った。

この年の5月10日、攘夷が決行され、長州藩は馬関海峡を封鎖、米仏蘭艦船に対して砲撃を加える事件が起こる。この事件に接した繁興は、攘夷決行を促すため急いで福岡へ帰藩した。福岡において繁興は、福岡藩士で尊王攘夷派の河合茂山勝文の家に身を寄せ、野村望東尼の庵で密会し、藩政の沈滞に憤りを覚え、改革を促すよう仕向けた。しかし、佐幕派に阻まれ、やむなく非常手段に訴えることとなり、元治元（1864）年3月24日、

牧市内の暗殺と中村圓太の脱獄に加担した。この決行にあたり、筑紫衛等と肥前田代（現、佐賀県鳥栖市）の志士に連絡して、下手人および圓太一行の潜匿地を用意するなどの計画を立て、決行後は自ら、圓太一行を護衛して無事に田代姫方村の志士、梁井直衛宅へ送り届けた。

3) 福岡藩を脱藩、長州へ

繁興は、一行を送り届けた後も独り、田代近傍に隠れて、福岡捕吏の動静を伺っていたが、転じて豊前に入り、廣田耕作と名を変え、再び転じて、久留米藩に出て、若津港から長崎行きの船に乗った。この船中において、偶然圓太一行と遭遇し、一緒に長崎へ行き、長州藩間役の小田村文助（後の榎取素彦男爵）と会った。文助の尽力により、長崎から快船に乗って、同年3月28日、馬関に入った。同地において桂氏（小五郎か）に会い、直ちに三田尻へ行き、忠勇隊に編入された。この時、三輪松之助と名を変えている。

4) 禁門の変に参加

繁興は同年6月、長州藩先発軍に所属し、忠勇隊の隊長真木和泉に従い上洛した。繁興らは禁門の変にあたり、天王山の麓に駐屯していたが、数日経った同年7月19日の明け方、幕府軍の急襲にあった。真木和泉は同士16名と共に死を決し、繁興も共に死のうとしたが、真木和泉は

「我ハ負傷シテ起ツコト能ハサルヲ知ル 卿等ハ宜ク此場ヲ落延 後図ヲナセ」

と言い、子の菊四郎（又の名を弦）と弟の直人（又の名を外記）を託し、長州藩へ落とした。繁興らは、真木らと決別し、落ちる途中、英彦山の同士と遭遇し、共に兵庫から船を出して三田尻に到着し、三条卿の守衛に復帰した。

それから間もなく、幕府は征長の軍を起こしたため、大神繁興は筑前の同士と共に、忠勇隊に加わり、周防の高森（現、山口県岩国市）に駐陣した。

4) 福岡帰藩、刑死

第一次長州征伐後、繁興は福岡藩の藩論が攘夷側に回復したと聞き、同年10月10日、堀六郎義則、

斎田要七尚義らと共に帰藩した。福岡にて、藩士の月形洗蔵と計り、藩論を尊王攘夷へ傾け、筑長連合実現に向けて策を巡らせた。しかし、藩論は佐幕に一変し、連合案は水泡に帰した。大神繁興は、脱藩の罪で2人の同士と共に摘発され、入獄し、同年10月18日に小呂島へ流刑となった。

その配所に着いた時、詠んだ句

「みそら行く月の光はかわらねど
薄雲かかる時もあるかな」

「秋ふかみよわる虫の音聞くさへも
おもひぞまさる国の行末」

翌、慶応元（1865）年になるといわゆる乙丑の獄が起り、福岡藩の攘夷派志士は大弾圧を受けることとなる。繁興は、この年の6月、小呂島から福岡の獄へ送られ、同年10月23日に斬罪に処せられた。

繁興が口吟した辞世の句

「砕けてもいとわざらめや君のため
こころつくしの玉と散るとも」

享年32歳、前原村に葬られた。

5) 維新後

明治維新後、招魂社に祀られ、後に靖国神社に合祀された。

明治2年3月吊祭料として、銀子を下賜された。
その全文

「 前原宿神職
大神上総繁正 事
御詮議ヲ以父壺岐守ト申者
為吊料銀子十兩被下候事
巳三月 」

「同三年祭資料永世下賜

大神繁正
亡父壺岐守累年勤皇之志厚方向を完国ニ
心力を盡といへとも不幸宿志を不遂之段
不便之至ニ候依之以格別為吊料永世銀七
枚宛下賜候御沙汰候事

六月 藩政応 』

また、明治35（1901）年、天皇が熊本へ御臨幸の際に、位を授かった。

「贈正五位

宮内大臣従二位勲一等子爵田中光顕宣

明治三十五年十一月八日

故 大神壱岐」

1) 口宣案

文久3年、繁興が京都に上り、従五位下肥前守を賜った時に下された文書と伝わる。（写真2）

「上卿新大納言

文久三年三月廿八日 宣旨

従五位下大神繁興

宣任肥前守

藏人権右中弁兼右衛門権佐藤原博房奉」

包紙（写真2－右）には

Ⅲ 大神壱岐守史料

繁興に関する史料には、大神家系譜や口宣案、和歌、随筆などが含まれる。

また、明治維新後に建てられた顕彰碑や銅像などがあつた。

「口宣案 二」

と書かれ、菊と桐の御紋が入った漆塗りの箱に納められている（写真3）。

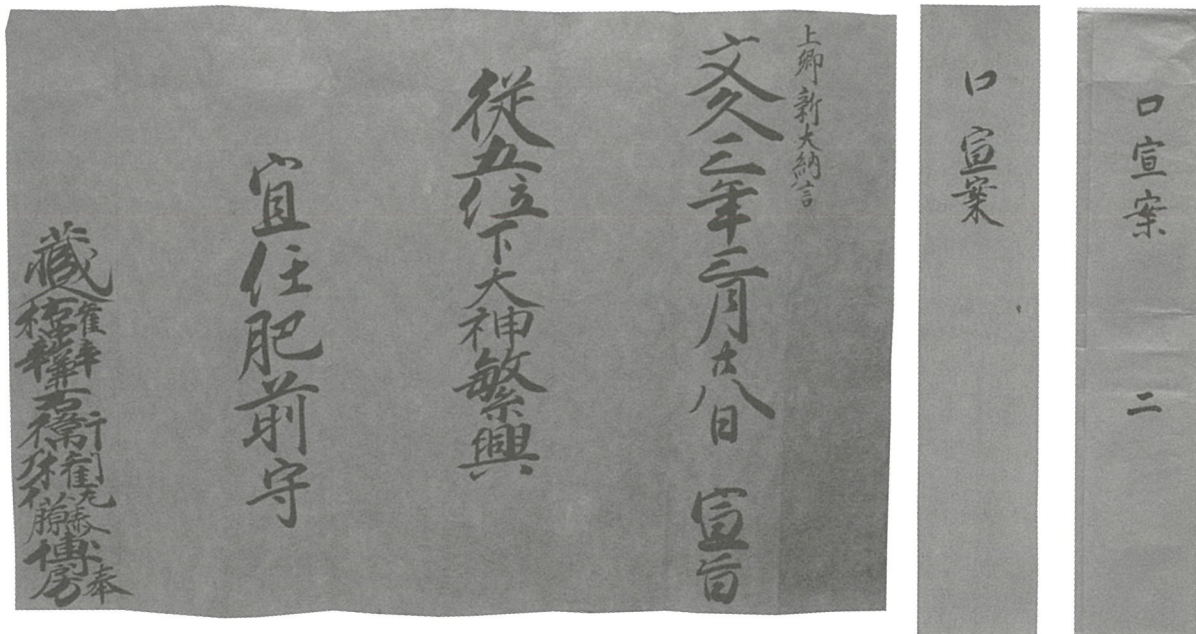


写真2 口宣案（左・中）、包紙（右）



写真3 口宣案外箱

2) 大神壱岐守銅像

現在、糸島市の笹山公園になっている場所に、繁興を顕彰する銅像が建てられていたと伝わる。写真4は、銅像の絵はがきで、写真の下に「贈正五位大神壱岐守銅像（たかの写）」とある。

繁興の子孫である大神正徳氏によれば、この銅像は、太平洋戦争時の金属回収令により供出され、失われたそうである。

現在は台座を含めすべての遺構が失われているため、その詳しい場所はわからなくなっている。しかし、絵はがきの写真から、笹山公園山頂の忠霊塔下の広場南西側であった可能性が高い（第1図の地図中②の場所）。また、正確な大きさもわからないが、写真から台座の高さ3m程度、銅像およそ1m50～60cm（繁興の身長に合せたのか？）合せて4.5mくらいであったと考えられる。

3) 丸田の碑

繁興の墓が、丸田（糸島市役所東側、第1図の地図中③）の墓地にあったようだ。この碑表には次のように書かれていたとされる（大神文書7）。



（寫のかた） 像銅守岐壹神大位五正贈

写真4 大神壱岐守銅像（絵はがき）

「大神壱岐守茂（ママ）興墓

裏銘

茂（ママ）興性直実而頗勤

王為国事勞其身数歳茲

慶応紀元乙丑年十月二十有三日

就刑死享年三十二門人等感其

偉債築墳墓以表之矣

明治二年巳七月二十日 』

現在墓は、公園等の整備により失われている。

IV おわりに

以上、繁興の生涯を簡単ではあるが見てきた。繁興の勤皇志士としての活動は、文久3年～元治元年にかけての僅か2年間に凝縮されている（関連年表）。特に後半期の元治元年には、暗殺と脱獄の補助→脱藩→長州藩へ亡命→禁門の変→長州藩へ落ちる→福岡帰藩→投獄・流罪と非常に目ま

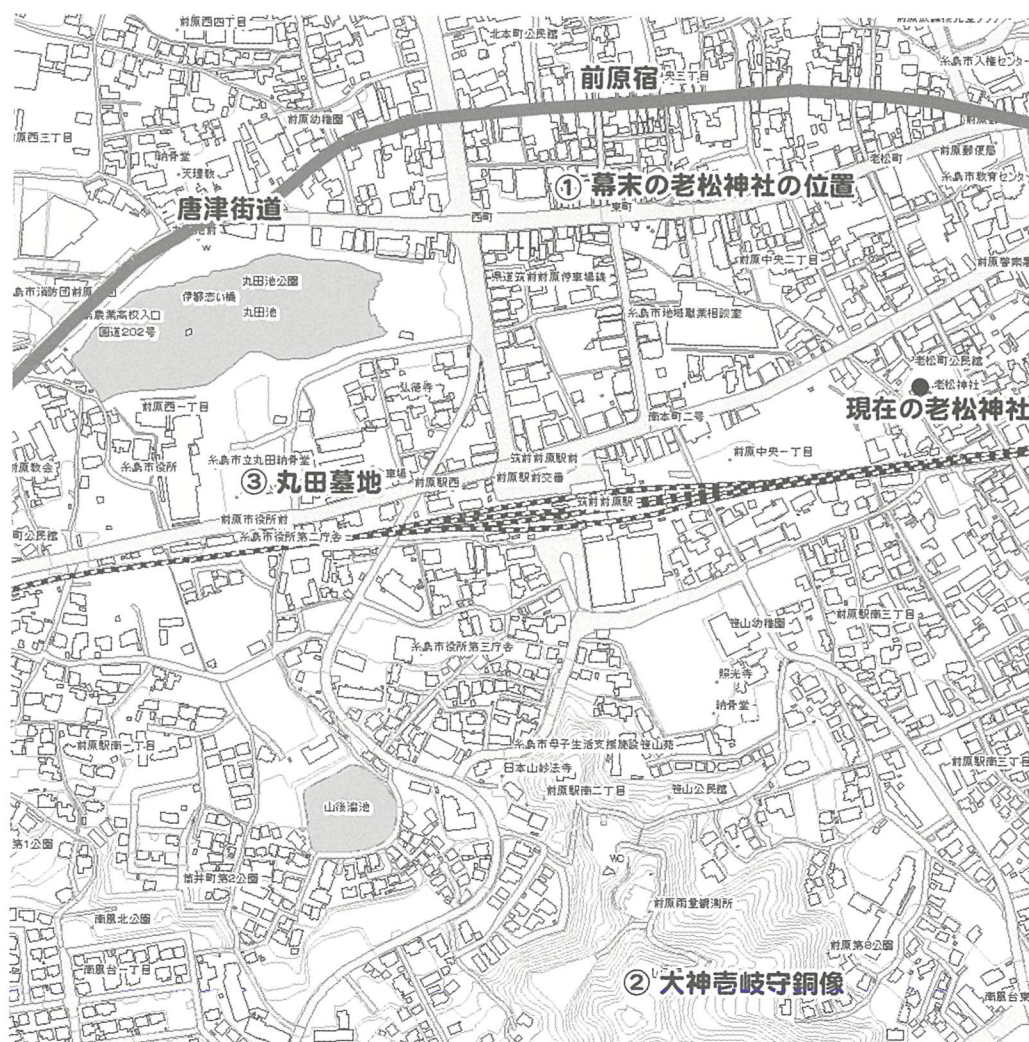
た先人がいたことを忘れてはならない。

〈謝辭〉

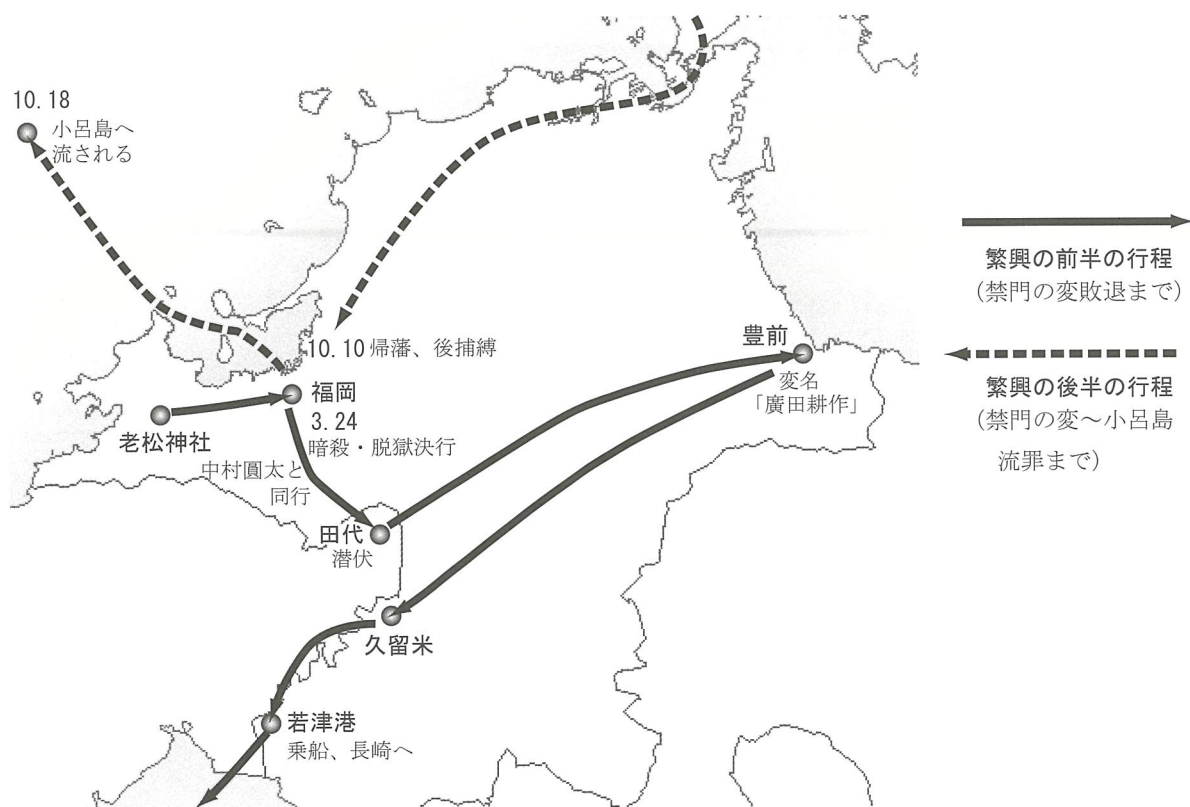
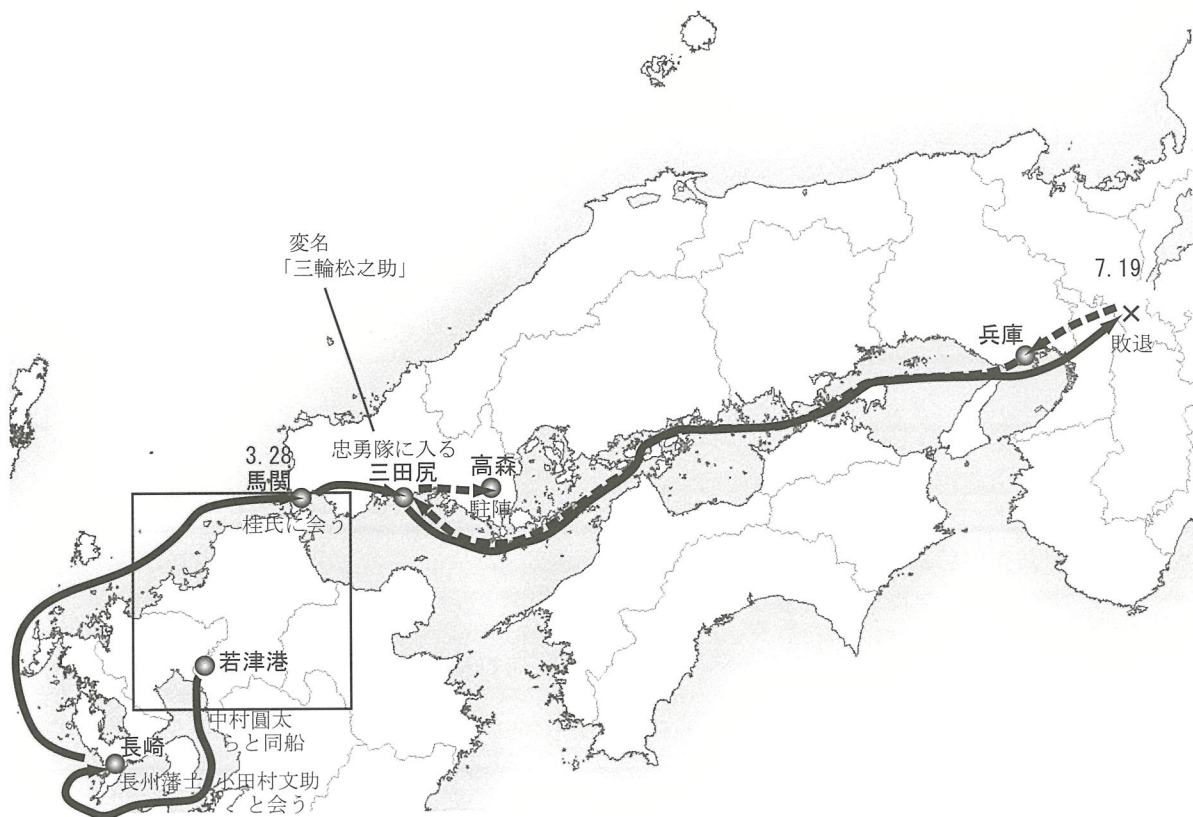
企画展の開催にあたって、大神壱岐守繁興に関連する史料については、大神正徳氏にご提供をいただいた。また、幕末の糸島に関連する出来事や人物については、有田和樹氏に助言並びに貴重な情報をいただいた。ご協力いただいたお二人に深く感謝申し上げたい。

(参考文献)

牛島賢治『福岡県前原町誌（復刻版）』（文献出版、1975年）
有田和樹『唐津街道前原宿研究所』（ブログ
<http://karatsukaido.jugem.jp>）
新修志摩町史編集委員会編『新修志摩町史』（志摩町、
2009年）



第1図 大神壺岐守関連地図



第2図 元治元年における大神彦岐守の活動図

表1 大神壱岐守繁興 年譜

西暦	年号	年齢	大神壱岐守繁興に関するできごと	国内の主なできごと
1834 1848 1862	天保5 嘉永元 文久2	1 15 29	・ 3.21 誕生。幼名を堰と称す ・ 大神家を継いで老松神社神職に。壱岐守と称す。	・ 4.23 寺田屋事件 ・ 8.21 生麦事件 ・ 12.12 イギリス公使館焼き討ち
1863	文久3	30	・ 京都に上り、「従五位下肥前守」を賜る ・ 京都から福岡に帰り、藩論を尊王攘夷に傾けるよう運動する	・ 5.10 長州藩、馬関海峡においてアメリカ商船砲撃。(以降、フランス軍艦・オランダ軍艦も砲撃) ・ 8.18 八月十八日の政変。尊王攘夷派の公卿が宮中から一掃される → 七卿落ち ・ 9.21 土佐勤王党弾圧。武市半平太らが投獄される
1864	元治元	31	・ 3.24 同士と共に、福岡藩家老の牧市内暗殺と中村圓太の脱獄を執行する ・ 脱藩し、肥前田代に潜伏。豊前、久留米を経て長崎へ。豊前で「廣田耕作」と変名 ・ 3.28 馬関に入る ・ 三田尻へ行き、忠勇隊に入る。この時、「三輪松之助」と変名 ・ 7.19 天王山で幕府軍の急襲にあう ・ 兵庫から船に乗り、三田尻へ逃れる ・ 忠勇隊に加わり、周防高森に駐陣 ・ 10.10 同士とともに福岡へ帰藩 ・ 10.18 小呂島に流罪	・ 6.5 池田屋事件 ・ 7.19 禁門の変。長州藩兵、幕府方に敗れる ・ 7.20 平野国臣刑死 ・ 7.24 第一次長州征伐（長州藩征討の勅命） ・ 8.5～6 四国連合艦隊、下関の砲台を占拠 ・ 10.21 長州藩、騎兵隊など諸隊に解散するよう諭告 ・ 11 高杉晋作、野村望東尼の平尾山荘に匿われる
1865	慶応元	32	・ 6 小呂島から福岡の獄へ送られる ・ 10.23 刑死	・ 3.15 長州藩、諸隊を再編成 ・ 閏5.11 武市半平太ら刑死 ・ 10 福岡藩で尊王攘夷派の弾圧事件「乙丑の獄」が始まる ・ 11.15 野村望東尼が姫島に流される ・ 1.21 薩長同盟 ・ 9.16 野村望東尼、姫島から救出される ・ 10.24 慶喜将軍職辞任 ・ 11.6 野村望東尼病没（62歳） ・ 12.9 大政復古の発令
1866	慶応2			
1867	慶応3			
1868	明治元		・ 3 子の繁正に吊祭料として銀子が下賜される	・ 9.8 明治と改元
1869	明治2		・ 7.20 繁興の墓が丸田の墓地に建てられる	
1901	明治35		・ 11.8 正五位が贈られる	

表2 大神文書 一覧

史料 番号	史 料 名	製 作 年	差 出 (記録者)	宛 所	形 態	点 数	内 容	備 考
1	口宣案二	文久三年三月一八日	上卿新大納言	大神繁興	一紙	1	従五位下大神繁興 1 宣任肥前守	函入り
2	[書簡]	十一月廿六日	大神志岐守	父上様		1		函入り
3	大神壹岐守繁興略伝	明治三十五年	大神繁正		冊子	1		函入り
4	口上				一紙	1		函入り
5	靖国神社合祀	明治二十四年	前原村長高市東吾	大神繁正	罫紙	1		函入り
6	年の唄				冊子	1	赤穂精義内侍所、落栗物語、薩摩風土記	函入り
7	丸田ノ碑表	明治二年七月二十日			罫紙	1	壹岐守繁興墓 (大神)	函入り
8	銅像写真				写真焼き付け	7	大神壹岐守銅像写真 (笹山)	函入り
9	大神壹岐守繁興事蹟書	明治七年六月			罫紙	1	大神繁正書 『後年訂正シテ出ス』	「大神家歴代」封筒入
10	大神家略系譜	一			一紙	1		「大神家歴代」封筒入
11	大神家略系譜	明治二十年十月十二日			罫紙	1		「大神家歴代」封筒入
12	大神家略系譜				一紙	1		「大神家歴代」封筒入
13	大神家略系譜・改名願	大正四年十月			罫紙	1	大神豊吉→糸島郡長山口良助へ改名願。系図は改名願に添付したもの	「大神家歴代」封筒入
14	夫神氏歴代歸天簿				罫紙	1		「大神家歴代」封筒入
15	大神氏伝説記	天保六年十一月廿四日			一紙	1		「大神家歴代」封筒入
16	覚書?				一紙	1		「大神家歴代」封筒入
17	詩				冊子	1	生涯無定地運命在皇天	「自書」封筒入
18	和歌				卷子	1		「自書」封筒入
19	和歌				卷子	1		「自書」封筒入
20	和歌				卷子	1	詠露	「自書」封筒入
21	序政集				冊子	1	杉酒屋蔵 他	「自書」封筒入
22	牢中隨筆				冊子	1	鳩巢逸話	「自書」封筒入
23	口上之覚				冊子	1		「自書」封筒入
24	大神壹岐守門人名簿				罫帳	1		「自書」封筒入
25	門入帳	安政元年正月ヨリ			罫帳	1		「自書」封筒入
26	覚書?				一紙	1		「自書」封筒入
27	画帳				冊子	1	植物の絵	「自書」封筒入
28	手紙				一紙	1	桜井大宮司→大神	「自書」封筒入
29	鎮魂祭式		大神茂興		冊子	1		「自書」封筒入
30	十種神宝行事次第		大神堰大三輪茂興		冊子	1		「自書」封筒入
31	神道次第				折帳	1		「自書」封筒入
32	串料				一紙	1	大神志岐守永世串料	「自書」封筒入
33	一向宗一枚起請文ほか				冊子	1		「自書」封筒入
34	皇国 古学古道太意 全		平田門人 竹内孫市		冊子	1		「自書」封筒入
35	真宗安心帖				横帳	1		「自書」封筒入
36	占帳	天保十五年三月	大神堰 也		小冊子	1		「自書」封筒入
37	杉能舎 筆 三卷				冊子	1		「自書」封筒入
38	錦裳智術全書				横帳	1		「自書」封筒入
39	表題なし				冊子	1	松平越中守建白ほか	「自書」封筒入
40	その他				横帳の残欠	1		「自書」封筒入